

行財政改革待ったなし！ ～持続可能な茅野市であるために～

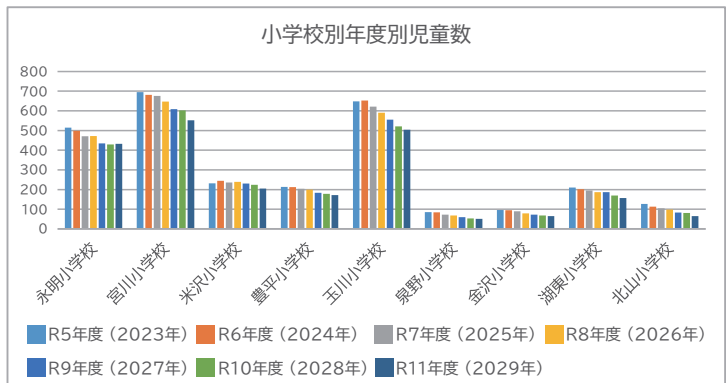
Vol.3 小中学校の児童生徒数の推計

先月号では、人口減少・超少子高齢化の進展（人口構造のアンバランス化）と公共施設の現状についてお知らせしました。今回は、人口構造の中で「年少人口」にあたる「小中学校の児童生徒数」について、学校別に具体的な推計をまとめました。

学校別年度別児童生徒数推計

小学校

【小学校】	(R5.6.30 現在) (人)						
	R5年度 (2023年)	R6年度 (2024年)	R7年度 (2025年)	R8年度 (2026年)	R9年度 (2027年)	R10年度 (2028年)	R11年度 (2029年)
永明小学校	515	499	471	472	434	429	432
宮川小学校	695	681	676	647	609	602	552
米沢小学校	232	244	236	239	231	224	205
豊平小学校	213	212	204	199	183	178	172
玉川小学校	648	652	621	590	555	521	504
泉野小学校	85	84	72	68	60	53	51
金沢小学校	96	95	90	79	72	68	65
湖東小学校	210	202	195	187	187	170	157
北山小学校	127	113	105	98	83	81	65
合計	2,821	2,782	2,670	2,579	2,414	2,326	2,203
前年度比較		△ 39	△ 112	△ 91	△ 165	△ 88	△ 123
増減累計		△ 39	△ 151	△ 242	△ 407	△ 495	△ 618



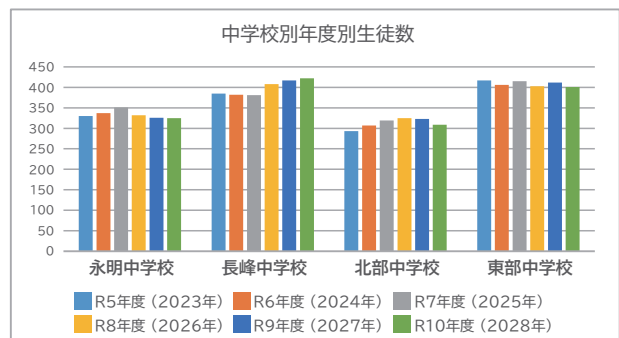
小学校については、令和5年度の合計2,821人から、6年後の令和11年度には2,203人まで618人減少する見込みです。大きく減少が見込まれる学校では約5割の児童数になる一方で、減少が少ない学校は約9割を維持する見込みとなっており、学校によって大きな差があります。

仮に、茅野市のどの小学校に通う子どもたちも、学びの確かさ・豊かさを得られることが望ましいとすれば、1学年が10人を下回る学校と、100人いる学校とでは、得られる機会に差ができてしまう可能性も否定できません。未来を担う子どもたちのために、これからの小学校のあり方について十分な議論が必要です。

中学校

【中学校】	(R5.6.30 現在) (人)					
	R5年度 (2023年)	R6年度 (2024年)	R7年度 (2025年)	R8年度 (2026年)	R9年度 (2027年)	R10年度 (2028年)
永明中学校	330	337	351	332	326	325
長峰中学校	385	382	381	408	417	422
北部中学校	293	307	319	325	323	309
東部中学校	417	406	415	403	412	401
合計	※1,425	※1,432	1,466	1,468	1,478	1,457

※市外の中学校に通う生徒（R5年度実績：61人、R6年度見込：36人）は除いた合計です



中学校は、今後5年間では急激な生徒数の減少はない見込みです。ただし、当然のことながら小学生が減少していけば、いずれは中学生も減少することから、その時に向けた準備や対策を考えておくことは必要です。

小中学校は子どもたちの学びの場所として重要な公共施設の一つですが、規模が大きく、数も複数あることから、建物の維持管理・修繕費だけでもR5年度は約5億円の予算を計上しています。また、今後10年間に必要な長寿命化工事費は小中学校合わせて約100億円を見込んでおり、市財政への影響が非常に大きい施設でもあります。子どもたちの教育・学びのあり方の観点で学校施設がどうあるべきかについても検討していく必要があります。



問い合わせ 企画課 行政経営係 ☎72-2101 (内線 155) / E-mail kikaku@city.chino.lg.jp